

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	西海 幹樹
主な担当科目	インターンシップ①,インターンシップ②,公演実習Ⅰ,公演実習Ⅱ,公演実習Ⅲ,公演実習Ⅳ,卒業制作作品研究,舞台スタッフ論①,舞台スタッフ論②,舞台芸術実習_①,舞台芸術実習_②,舞台芸術実習_③,舞台照明演習,舞台情報処理,舞台製作概論
シラバス	ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。) ※画面下「シラバス」>「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック
2023年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	舞台スタッフにおける実践的な人材育成を行う。 1.安全教育の徹底 2.業界が必要とする資格取得の人材育成 3.最新技術を取り入れた実践的な照明技術者の育成
2023年の教育に関 する自己評価	本年度は舞台監督の専任教員が就任したことにより、安全教育及び舞台照明の教育に集中することができ、教材の更新及び機材メンテナンス等実施できた。同時に学生へのフィードバック及び資格取得への指導、就職活動への助言、企業マッチング等柔軟な教育活動ができた。授業外においても、学生が学び・研究しやすい環境整備を行い、舞台技術等の指導が積極的にできた。来年度はより効率的に各学生が自発的に学び・研究しやすい環境が提供できるよう検討したい。予算面についても可能な限りコストカットを行った。
2023年のFD活動 に関する自己評価	積極的に参加し大学の運営状況や各分科会の検討事項について取り組むことができた。 多様性のある学生への対応が必要なことが理解できたが、一方限られた教員、授業内で授業の質を確保しながら対応する授業運営の難しさを改めて感じた。引き続き検討したい。
授業改善のために 取り入れた研修内容	・セメスター制導入における授業検討 ・公演実習等舞台スタッフとしての専門科目の対応についての検討 ※多様性と参加公演の質について検討

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2068 教員名:西海 幹樹

舞台スタッフ論②

1)アンケート結果に対する所見

- ・興味や関心がある 93.8%(昨年度 95.7%)、満足度 93.8%(昨年度 95.7%)と満足度の高い授業が運営できた。

2)要件への対応・改善方策

- ・ネガティブな意見が少なく今後も興味や関心、満足度が高い授業を運営できるよう最新の情報を取り入れ運営を行う。

3)今後の課題

- ・今後も最新の舞台技術を取り入れて授業のブラッシュアップを行う。
- ・レジュメの共通化を行う(複数教員のため改善する)
- ・北校舎の設備(エレベーター)、空調等の記述が目立ち、北校舎の設備改善を望む。

舞台芸術実習①③

1)アンケート結果に対する所見

- ・公演の準備作業、そのための基礎知識と専門性が高い授業のため全体的には評価が高い、また各自公演に対する意識によって大きな違いがあり、今後も舞台スタッフとしての基礎知識やマナーを学ぶ科目として満足度を上げたい。

2)要件への対応・改善方策

- ・卒業公演の準備のための授業だった。
 - 卒業公演の準備を目的とした授業です。詳細はシラバスをご確認ください。
- ・卒業公演に参加しないので自習のようだった。
 - 主にデザイン検討や稽古が中心となる授業であり、意欲が求められる内容です。来年度からはカリキュラムを見直し、改善を図る予定です。

3)今後の課題

- ・学生数増加に対して指導教員不足であり運営を再検討したい。

公演実習Ⅰ、Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(舞台監督・照明)

1)アンケート結果に対する所見

公演(劇場入り)の舞台監督/照明セクションの作業であり非常に専門性が高く、満足度が高い。

2)要件への対応・改善方策

- ・授業コマ数と演目数のバランスを再度行う。

3)今後の課題

実習内の作業量などが分散され1作品の全体の作業・仕事を体験することが難しくなっている。複数クラスや教員・施設の充実が今後の課題である。

インターンシップ①②

1) アンケート結果に対する所見

満足度は高い

2) 要件への対応・改善方策

- ・必修の実習に戻すべきである
→プロの現場を知る貴重な機会ではあるが、一方で夏休み期間の実施で、改善希望が多かったため、選択制であるインターンシップとした。また大学オペラが隔年実施となり、必修であるため毎年運営する必要があり公演実習では対応できない。

3) 今後の課題

コロナ等の制限があり、受け入れ先の減少と参加演目の検証が重要である。

舞台情報処理(XYZ クラス)

1) アンケート結果に対する所見

- ・興味や関心がある 100%、満足度 100%と満足度の高い授業が運営できた。

2) 要件への対応・改善方策

- ・ネガティブな意見が少なく今後も興味や関心、満足度が高い授業を運営できるよう最新の情報を取り入れ運営を行う。

3) 今後の課題

- ・今後も最新の舞台図面 CAD 技術を反映して授業運用を行う。

以 上